

# 上ノ国町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

上ノ国町は、人口約4,700人の第一次産業を基幹産業とする過疎地域である。

路線バス（小砂子線）はJR江差線線区廃線に伴い運行された地域間幹線バス（江差木古内線）と一部運行区間が重複することなどから廃止されたが、商業施設及び教育施設は中心市街地に集中し、病院は隣町への通院等が余儀なくされていることから、未成年者及び高齢者等を中心に通院、買い物、通学など生活のために生活路線バスは必要不可欠なものであり、また本町と松前町の間で公共交通機関の空白地帯があり支障を来していることなどの解消も求められていた。

本事業により、新たな路線バス（小砂子線）を松前町から江差町までの区間で運行し、また江差木古内線と接続することにより、住民の生活交通手段を存続させていくことが今後も必要と考えている。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

小砂子線を運行・維持することにより、町内海岸部集落の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行形態が実現でき、外出促進・地域活性化にも繋がる。

また、公共交通機関の交通空白地帯を解消することにより、利用者の増加に繋がる。

【目標】	・平均乗車密度	1.15人
	・利用者数	1,950人（人口千人あたり）

## 令和元年度（平成31年度）事業概要

○小砂子線	運行日数：364日	運行回数：1,574回
江差ターミナル～小砂子～原口漁港前		3回/日
江差ターミナル～小砂子		1.5回/日
		（1.0回/日 土日祝）

## 地域公共交通の現況

- 函館バス株式会社（2路線）
  - ・小砂子線（地域内フィーダー系統）
  - ・江差木古内線（広域生活交通路線）

- スクールバス（3路線）

## 協議会開催状況

- 平成26年5月23日 第1回地域公共交通会議
  - ・上ノ国町地域公共交通会議設置要綱
  - ・平成27年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成27年6月23日 第2回地域公共交通会議
  - ・平成28年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成28年1月19日 第3回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 平成28年6月16日 第4回地域公共交通会議
  - ・生活路線バス「小砂子線」に係る運行区間の見直し
  - ・平成29年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成29年1月20日 第5回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 平成29年7月27日 第6回地域公共交通会議
  - ・平成29年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成30年1月18日 第7回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 平成30年6月21日 第8回地域公共交通会議
  - ・平成30年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成31年1月16日 第9回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 令和元年6月24日 第10回地域公共交通会議
  - ・平成31年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 令和2年1月22日 第11回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

# 令和元年度（平成31年度）事業の実施状況

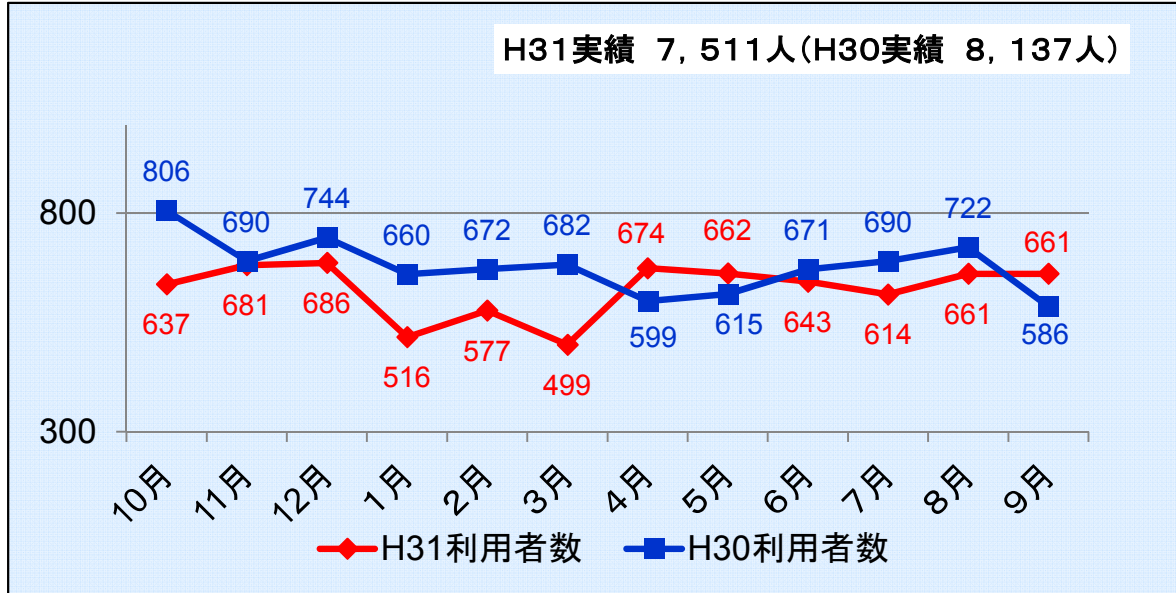
## 1) プロセス、創意工夫

- ・フリー降車制を一部区間（原歌～浜中間）で実施した
- ・全バス停留所を記載した時刻表を作成し、町内全戸へ配布した。（平成31年4月）
- ・下り最終便終点手前停留所で乗降客がない場合、回送運行を行った。

## 2) 運行系統



### 3) 利用実績

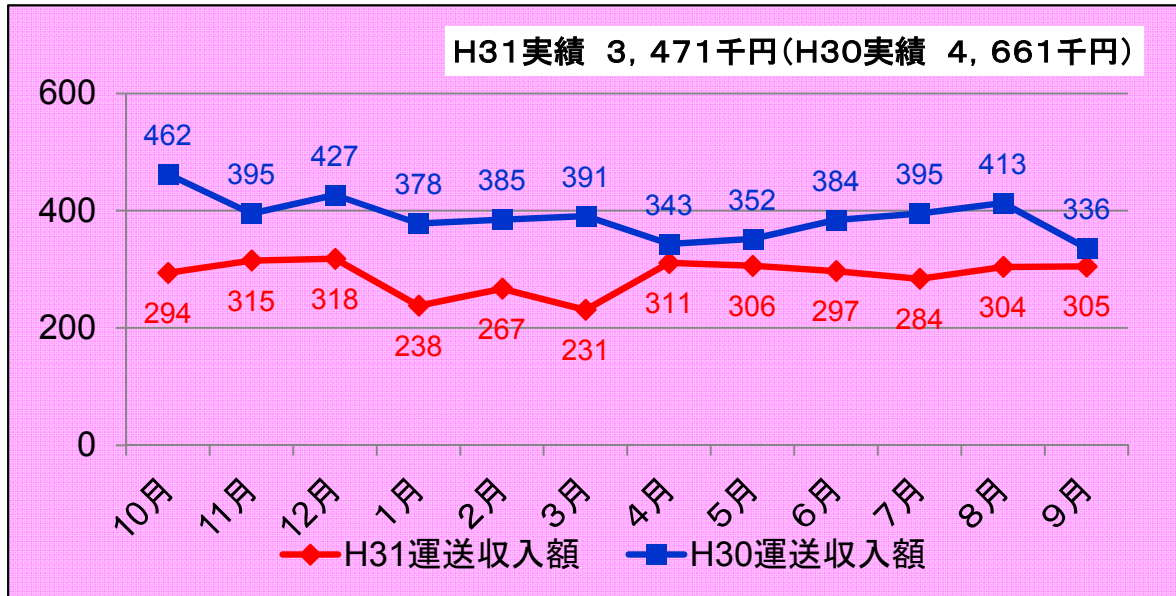


(参考資料)

生活路線バス「小砂子線」に係る経常損益算定表

年 度		平成31年度	平成30年度
運 行 回 数 ( 平 均 )	( 回 )	4.3	4.3
実 運 行 日 数	( 日 )	364	363
実 運 行 回 数	( 回 )	1,574.0	1,571.0
乗 車 走 行 キ 口	( キ 口 )	112,378.4	114,071.8
乗 車 密 度		0.81	0.95
輸 送 量	( 人 )	3,339	4,009
経 常 費 用	( 千 円 )	32,305	33,011
	キロ当たり経常費用 ( 円 )	287.47	289.39
経 常 収 益	( 千 円 )	4,199	5,454
	運 送 収 入 ( 千 円 )	3,471	4,661
	そ の 他 収 入 ( 千 円 )	728	793
経常損益(赤字額)	( 千 円 )	▲ 28,106	▲ 27,557
負担内訳	国 庫 補 助 金 ( 千 円 )	6,174	5,574
	町 補 助 金 ( 千 円 )	21,932	21,982
	そ の 他 ( 千 円 )	0	1

### 4) 収入実績



## 5) 事業実施の適切性

- 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
- 利用者数などは目標に達しないものの、下り最終便空車時（終点手前停留所で乗降客がない場合）回送運行を行った結果効率的な運行が図られたほか、一部区間のフリー降車を実施した結果、利用者の利便性が向上した。

## 6) 目標・効果達成状況

- 本路線を利用する学生の人数が、前年度に比較して減少したため平均乗車密が、  
目標の1.15人に対して 0.81人  
(前年度0.95人)

であった。

$$\begin{array}{l} \text{※算出根拠} \quad \text{実車走行キロ数} \quad \div \quad \text{運行キロ数} \\ \quad \quad \quad 90,789.3 \text{ km} \quad \quad \div \quad 112,378.4 \text{ km} \end{array}$$

- 運行便数の減便や学生利用者の減少などの影響により、人口千人あたりの利用者数が  
目標の1,950人に対して 1,560人  
(前年度 1,658人)

であった。

$$\begin{array}{l} \text{※算出根拠} \quad \text{年間利用者数} \quad \div \quad \text{住基人口} \times 1,000 \text{人} \\ \quad \quad \quad 7,511 \text{人} \quad \quad \quad \div \quad 4,815 \text{人} \times 1,000 \text{人} \end{array}$$

## 7) 事業の今後の改善点

- 町広報誌や町ホームページへ運行ダイヤを掲載するなど広報活動に力を入れ、新たな利用者の拡大を図る。
- 町営温泉施設への乗入やフリー乗降区間の設定など高齢者等の利便性を図るとともに、利用者（町民）の運賃補助等の実施を検討する。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和2年度分と併せて評価)